

目 次

- ・歯周病学講座教授就任 3
- ・教授就任挨拶 上田雅俊 3
- ・「専門学校財政改善等検討委員会」発足 4
- ・来年度予算さらに5%削減へ 4
- ・平成18年度6学年父兄会開催 4
- ・第38回大学祭 5
- ・寄 贈 5
- ・平成18年秋の叙勲・褒章受章者 5
- ・学位（博士）授与報告 6
- ・第2回人権啓発標語入賞者表彰 6

- ・平成18年度教職員懇親旅行 7
- ・平成18年度自衛消防訓練 9
- ・学校教育法改正に伴う教員組織の
見直しに関する説明会 9
- ・平成18年度教職員忘年慰労会 9
- <トピックス>
- ・学園都市ひらかた推進協議会「キャン
パスミーティング」本学で開催 10
- ・人 事 11
- ・あとがき 12



平成18年度 教職員懇親旅行・一泊旅行（平成18年9月17日～18日）

歯周病学講座教授就任

平成18年10月1日付けで、歯周病学講座助教授の上田雅俊先生が教授に就任された。

上田教授の略歴は以下の通りである。

歯周病学講座教授

上田 雅俊 (うへだ まさとし)

歯学博士

昭和18年生まれ、62歳

<学 歴>

昭和37年 4月 大阪歯科大学入学

昭和43年 3月 大阪歯科大学卒業

昭和50年 3月 歯学博士学位取得 (大阪歯科大学)

<職 歴>

昭和43年 4月 大阪歯科大学副手 (歯周病学講座)

昭和44年 4月 大阪歯科大学助手 (歯周病学講座)

昭和47年 5月 大阪歯科大学大学院助手 (歯周病学)

昭和48年10月 大阪歯科大学講師 (歯周病学講座)

昭和58年 5月 大阪歯科大学大学院講師 (歯周病学)

平成 8年 4月 大阪歯科大学助教授 (歯周病学講座)

平成 8年 5月 大阪歯科大学大学院助教授 (歯周病学)

平成18年10月 大阪歯科大学教授 (歯周病学講座)

平成18年12月 大阪歯科大学大学院教授 (歯周病学)

教授就任挨拶

歯周病学講座 上田 雅俊

大阪歯科大学教授会ならびに法人理事会のご推挙により平成18年10月1日付けで歯周病学講座教授を拝命いたしました。当講座は歯槽膿漏科、歯周病科を経て昭和43年7月に歯周病学講座初代教授として山岡 昭先生がご就任され、平成7年8月に二代目教授として現理事長・学長の今井久夫先生がお継ぎになりました。



お二方ともに学内はもとより、学外(日本歯周病学

会等)でのご活躍はすばらしいの一言につきるといっても過言ではありません。一方、私は浅学非才ではありますが、教職員の皆様、同窓会、歯科医師会、学会関係者の皆様方のご支援、ご指導ならびにご協力を得てこの重責を果たしてまいりたいと考えておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ユニット制の流れに沿って歯周病を学ぶ

さて、周知のように、医科あるいは歯科大学の臨床講座にありましては、教育・研究・臨床の三本柱のいずれが欠けてもだめだと思います。

まず、教育についてであります。釈迦に説法となりますが、皆様方もよくご存知のように、ここ数年歯学教育の改革が進められ、本年から本格実施となりました共用試験および歯科医師国家試験を見据え、本学も教育の基本制度を講座制からユニット制に変換してきました。したがって、教える側としましてはCBTも頭に入れ、できるだけチュートリアル教育を考慮して講義を進めていく必要があります。現在行っております基礎実習におきましても、OSCEを加味したプレクリニックを取り入れることで、より具体的に実習内容を充実させ、つぎに臨床実習を行うというように、一つの流れに沿ったものにして考えております。

臨床実習もまた、学生さん達とのコミュニケーションをはかり、ディスカッションを通して歯周病という学問の歯科治療における位置づけなどを学んでもらい、単に歯科医師国家試験のために勉強するのではなく、系統的に学ぶなかで学生自らが主体性をもって取り組んでもらうことが重要であると考えています。その積み重ねが合格への礎となり、一般市民はもとより、患者様に慕われ、信頼され、尊敬される歯科医師への第一歩になればと考えております。

他講座との関係で臨床に直結した研究

また、研究面におきましては、前教授の今井理事長・学長が常にわれわれ教室員におっしゃられていた「研究テーマは、実験のための実験ではなく、臨床講座として、その結果をどのように臨床に反映させるか」ということを頭に描いて行っていきたいと考えております。すなわち、現在行っている臨床に直結した実験、例えば、口腔病理学講座に主として大学院生がご指導いただいておりますが、近年臨床の場で盛んに

行われている“歯周組織再生”の研究，あるいは歯科領域での臨床応用開発に講座として当初から携わっております“LDDS(=Local Drug Delivery System)”の研究が挙げられます。また，解剖学講座に大学院生がご指導いただいております歯周病の大きな要因の一つである“糖尿病”の研究，現代の複雑な人間関係のなかで社会問題となりつつある“口臭”の研究，あるいは歯周病治療の客観的評価で最も重要な“歯肉の色調”の研究なども主要な研究テーマであります。

さらに，共同研究に名を連ねさせていただいております内科学講座，口腔衛生学講座，細菌学講座，何年か前に共同研究させていただいた薬理学講座，生理学講座など基礎，臨床を問わず他講座との関係をはからせていただきながらご指導を仰ぎ，歯周病を多角的，多面的に検討していきたいと思っております。

歯周病専門医の育成を目指して

一方，臨床と教育の両方にかかわります卒業後研修につきましても，本年は本格実施の初年度でしたが，その研修プログラムをより充実させるとともに，一般臨床医として通用するGPの養成は勿論のこと，さらに一歩進めて歯周病専門医の第一歩となるような臨床教育を行っていききたいと考えております。

他方，特定非営利活動法人日本歯周病学会は，一昨年(平成16年)10月に学会認定専門医制度が認められました。私どもの診療場は専門医の研修施設ですし，私も指導医の末席をけがさせていただいておりますので，専門医の取得を目指す医局員，臨床研修員，大学院生の指導に現在もあたっておりますが，引き続き積極的に行っていききたいと思っております。また，昨年4月に施行されました日本歯周病学会認定歯科衛生士につきましても，本年(平成18年)4月に本学附属病院でもお二人の方が認定歯科衛生士の資格を取得いたしました。現在も資格取得を目指す本学歯科衛生士の指導にあたっており，今後も努力を続けていきたいと考えております。

新しい取り組み “いき～さ・わ・や・か” 外来

さて，現在，患者様の歯周治療といたしましては，従前から行われてまいりました一般的な歯周治療は勿論のことですが，研究の項でも述べさせていただきましたが，さらに一歩進めて，高度先進医療とし

ての歯周組織の再生治療に，診療場をあげて積極的に取り組んでおります。また，先日，病院長のお取り計らいで特殊外来として立ち上げていただきましたが，“いき～さ・わ・や・か” 外来，すなわち口臭外来にも力をいれております。

以上，教授就任にあたり，私なりの考えの一端をのべさせていただきましたが，いずれにいたしましても，今井理事長・学長をはじめ教授の先生方ならびに皆様方のご指導，ご指示，ご鞭撻をいただきながら，大学の将来に目標をおき，目的達成のため，何事にも積極的に正面から取り組んでいきたいと考えております。

「専門学校財政改善等検討委員会」発足

平成18年10月26日付けで，三谷 卓総務担当理事を委員長とする「専門学校財政改善等検討委員会」が発足した。同委員会は11人の委員で構成され，専門学校の維持発展に資することを目的として，財政改善等に関する総合的方策を検討する。なお，委員会の存続期間は平成24年3月31日までとなっている。

来年度予算さらに5%削減へ

10月12日(木)に開催された平成19年度予算説明会において，来年度はすべての経費において5%削減することが要請された。平成16年度から4年続けて前年比5%，5%，10%，5%の削減となり，平成15年度を基準とすると予算は約23%削減されることになる。

平成18年度 6学年父兄会開催

平成18年度6学年父兄会が，9月30日(土)午後1時より，楠葉学舎1号館2階第3大講義室において開催された。

今井久夫学長の挨拶，河見忠雄父兄会幹事長の挨拶に続き，6学年指導教授の清水谷公成先生から学士試

験や歯科医師国家試験の説明がなされた。その後、学年指導教授を中心に各助言教員の先生方と父兄および学生を交え、熱心に懇談が行われた。

なお、当日60名余のご父母が懇談に出席された。

第6学年父兄会次第

- 1. 開会 教務部長 川本 達雄
- 1. 挨拶 父兄会幹事長 河見 忠雄
- 学長 今井 久夫
- 学生部長 大東 道治
- 1. CBT 成績と学士試験及び歯科医師国家試験合格率との関係 6 学年指導教授 清水谷公成
- 1. 父兄懇談会 各助言教員と面談

第38回 大学祭

今年は“PASSION”というテーマのもとで、体育祭は牧野学舎で、また大学祭である楠葉祭は、今年も地域社会での開かれた大学として多彩な企画で行われた。

日 程

- ・ 体育祭：10月21日（土）
- ・ 楠葉祭：10月28日（土）・29日（日）

今年の体育祭は秋晴れの青く澄みきった晴天の中、時おり心地よい風がそよぐ、まさにスポーツの祭典にふさわしい天候に恵まれた。本学学生、学年指導教授、助言教員、校友会関係者および歯科技工士専門学校、歯科衛生士専門学校の学生が多数参加し、国旗掲揚ならびに国歌斉唱のあと、大阪歯科大学大学祭大会会長の今井久夫学長の挨拶で体育祭は開始された。

大会役員挨拶や歯学体関係の表彰式のあと、クラブ対抗リレー、綱引きなどの競技、体育系クラブ紹介と続き、本学伝統の「みこし」で締めくくられた。最後に、6年生が「ファイヤーストーム」を囲み学生生活最後の体育祭を熱気の中で満喫した。

一方、楠葉祭は各クラブの工夫により、焼きそば・じゃがバター・キャベツ焼き・たこ焼きなど20種類もの模擬店が賑やかに催され、学生・教職員を始め地域住民の方々も含めた交流の場となり、毎年ながら好評であった。また、展示では「解剖展」（ドイツ語研究会）、「シドニー訪問展」を開催し、それぞれの活動を見学者や学生達に紹介していた。2号館では、医局会医員

の指導により歯科大学としての特色を生かした企画として、病院生や歯科衛生士専門学校の生徒による「無料歯科相談」や「ブラッシング指導」も実施され、近隣住民が多数参加した。講堂では、学芸系クラブの邦楽部や管弦楽団、軽音楽部が日頃の練習の成果を発表した。イベント「情熱ウルトラクイズ」ではゲスト「千鳥」の司会により、楽しいひとときが催された。楠葉祭の最後を飾る芸能人ステージでは、テレビ・ラジオで活躍中の若手漫才師3組によるお笑いライブが披露され、爆笑のうちに幕を閉じた。

寄 贈

下記の寄贈を受けましたので報告します。寄贈いただいた各位には心より感謝いたします。

・大阪歯科大学第24回卒業(錦会)

卒業30周年を記念して 平成18年10月14日 寄贈
学術研究奨励基金として 300,000 円也

・大阪歯科大学第34回卒業(壮志会)

卒業20周年を記念して 平成18年10月28日 寄贈
学術研究奨励基金として 300,000 円也

・大阪歯科大学第14回卒業(寿歯会)

卒業40周年を記念して 平成18年11月18日 寄贈
学術研究奨励基金として 1,000,000 円也

平成18年 秋の叙勲・褒章受章者

平成18年秋の叙勲・褒章者として大阪歯科大学関係の先生方が、以下の通り受章されました。

叙 勲

専門 28 回	山岡 昭	大阪府	瑞宝中綬章
専門 29 回	向山 嘉幸	大阪府	瑞宝小綬章
専門 32 回	上西 淳伺	和歌山県	旭日双光章
大学 4 回	尾崎 英生	和歌山県	瑞宝双光章
大学 5 回	田中 雄三	愛媛県	旭日双光章
大学 7 回	嶋村 昭平	京都府	旭日双光章

褒 章

大学 14 回	吉本 一馬	兵庫県	藍綬褒章
---------	-------	-----	------

学位（博士）授与報告

- 藤原志郎** 乙第1477号 (平成18年9月27日)
Isolated rat dental pulp cell culture and transplanted with an alginate scaffold (ラット歯髓由来細胞の培養とアルジネートスキャフォールドを用いた移植について)
- 小山公一** 乙第1478号 (平成18年12月27日)
Highly sensitive detection of HPV DNA in paraffin sections of human oral carcinomas (パラフィン切片を用いた口腔癌におけるHPV DNAの高感度検出)
- 鍋島呂実** 乙第1479号 (平成18年12月27日)
成長期の交叉咬合患者における下顎側方偏位の分類
- 石原 研** 乙第1480号 (平成18年12月27日)
バイオフィルム様構造をもつ通性嫌気性グラム陽性桿菌の同定と性状
- 森 直樹** 乙第1481号 (平成18年12月27日)
Prevotella intermedia の菌体外多糖産生に関連する遺伝子発現
- 渡邊祐也** 乙第1482号 (平成18年12月27日)
Expression of p16 and p73 in adenoid cystic carcinoma of the salivary gland (唾液腺の腺様嚢胞癌における p 16 と p 73 の発現)
- 西島典幸** 乙第1483号 (平成18年12月27日)
Clinical efficacy of fluoride dentifrice on remineralization of white spot lesions (年齢別にみた初期う蝕病巣の進行・回復に及ぼすフッ化物配合歯磨剤の効果について)
- 芝本真和** 乙第1484号 (平成18年12月27日)
Experimental study on how distal tipping of the mandibular first molar affects the direction of eruption of the second molar (下顎第一大臼歯の遠心傾斜が下顎第二大臼歯の萌出方向に与える影響)
- 呉 相勲** 乙第1485号 (平成18年12月27日)
TMJ inflammation increases fos expression in the nucleus raphe magnus induced by subsequent formalin injection of the masseter or hindpaw of rat (ラット顎関節の炎症による咬筋あるいは足底へのホルマリン注射後に大縫線核において生じる Fos 発現の増強)

第2回 人権啓発標語入選者表彰

昨年に引き続き、人権週間(12月4日～12月10日)にあわせて、第2回「人権啓発標語」の学内募集をしました。教職員から9点の応募があり、標語選考委員会で審査の結果、最優秀作に総務課の吉村里美さんの「知らないふりや見ないふり それを無くして 明るい社会」が選ばれました。

吉村さん始め入選者6名は、12月18日に学長室において開催された表彰式で、今井理事長・学長から表彰状を授与された。

第2回人権啓発標語入選作品

入選者	作 品
最優秀作 吉村 里美	知らないふりや見ないふり それを無くして 明るい社会
優秀作 東 真一郎	自由で安心ある社会 自信をつけて 人権守ろう
優秀作 更谷 啓治	肩書きよりも地位よりも 大事なことって何ですか？ 思いやる 心が私は大好きです
佳作 青山 敏子	まごころと 行動が 相手を動かす 決め手です
佳作 和田 智恵	セクハラ パワハラ アカハラは 職場の零囲気 悪くする
佳作 中原しのぶ	いじめと差別で 罪なのは された方より やった方



人権標語入選者表彰式(優秀作の東病院庶務課長・左)

平成18年度 教職員懇親旅行

平成18年度教職員懇親旅行は、例年どおり3コースに分けて実施された。今年度の懇親旅行は、これまでの懇親旅行とは異なり、旅行補助金が1人2万円であったのが1人1万円に減額となったこと、また、これまで教職員から旅行委員を選出して旅行の企画から各コースのお世話までの全てを実施していたが、旅行費用の削減や企画開始時期の遅れなどにより、今年度は旅行委員を選出せず、担当課である総務課人事担当が企画立案し実施することになった。

一泊旅行「雄琴温泉と信楽陶芸の旅」

一泊旅行は、例年どおり企画され、9月17日(日)、18日(月)の2日間で行われた。参加者は、理事長の他、28名が参加した。自己負担は前年どおり一人1万円をいただき、節約のため17日の昼からの出発となった。まずは世界文化遺産に登録されている比叡山延暦寺に立ち寄った。天候は台風が近畿に接近してきており、いまにも雨が落ちてきそうな天候ではあったが、比叡山では、なんとか雨に降られることもなく、拝観する

ことができた。

その後、宿泊先である滋賀県雄琴の温泉旅館「湯元館」に到着した。夕食を兼ねた宴会が行われ、その席で今井理事長・学長からは、大学の財政状況の厳しい現状と今後、教職員の更なる協力が必要である旨のご挨拶があり、旅行費用の援助として理事長・学長から寸志をいただいた。また、宴会ではカラオケで盛り上がった後、2次会でも旅館のラウンジでほぼ全員が参加し、大いに盛り上がった。

翌日、心配していた台風も近畿から遠ざかり、晴天のなか、信楽での陶芸村の見学と自ら茶器を「手ひねり」による陶芸体験を行った。普段、参加者は粘土をこねる機会もないことから、「貴重な体験となった」という意見が聞かれた。

観劇・食事会「美々卯うどんすきと吉本新喜劇」

料亭「美々卯」での食事会と「なんばグランド花月」での漫才と吉本新喜劇の観劇は、10月15日(日)に実施された。今井理事長・学長をはじめ99名の出席で食事会は行われた。料亭「美々卯」は、中央区本町にあり、古くからうどんすきを名物として有名な料亭である。当日は、昼から2階フロアを貸し切りで、コンロ





を4、5名で囲み談笑のなか、盛大に行われた。今井理事長・学長からは、大学の財政状況の厳しい現状と今後、教職員の更なる協力が必要である旨のご挨拶があり、ここでも食事会の援助として理事長・学長から寸志をいただいた。

ほろ酔いの中、各自なんばグランド花月に場所を移し、実力派の漫才師による漫才、吉本新喜劇の観劇を行った。普段、思い切り笑う機会の少ない参加者からは、「楽しかった」という感想が寄せられた。

日帰り旅行「湯の花温泉と松茸懐石」

日帰りで京都亀岡の湯の花温泉郷を訪れる旅行は、11月19日(日)に実施された。今井理事長・学長をはじめ40名の参加であった。まず、午前9時30分に附属病院横ドーンセンター前に集合し、バスで京都伏見の月

桂冠大倉記念館を訪れた。付近には史跡「寺田屋」などがある風情豊かな場所にあり、江戸の昔から酒蔵として使われていた建物を利用した記念館で、酒作りの工程を見学し、日本酒の試飲も行った。次に、西本願寺前の漬物で有名な「西利本店」に立ち寄り、漬物の試食とショッピングを楽しんだ。

その後、京都亀岡湯の花温泉郷の旅館「溪山閣」で昼食・宴会そして露天風呂での入浴を楽しんだ。昼食・宴会では、今井理事長・学長から、大学の財政状況の厳しい現状と今後、教職員の更なる協力が必要であるが、来年度もできる限り懇親旅行は実施していきたいとのご挨拶があり、ここでも日帰り旅行の援助として理事長・学長から寸志をいただいた。食事は旬の松茸をふんだんに使ったもので参加者の中からは「おいしかった」との声も聞かれた。

平成18年度 自衛消防訓練

11月15日(水)午後4時より、楠葉学舎自衛消防訓練が枚方東消防署署員4名の立会いのもと、今井消防隊長以下約100名の教職員の参加を得て行われた。

訓練は、4号館1階学内食堂厨房から出火したとの想定で、火災発生を連絡する通報訓練から始まり、各人が避難誘導・警戒・搬出・工作・救助等の役割を果たしながら速やかに副門前へ避難した。全員の避難を確認後、図書館3階から緩降機による避難訓練を行い、次いで水消火器と消火ホースを用いて初期消火を実演した。消防署からの講評では、概ね好意的な感想とともに、近年の寝屋川・枚方管内における火災事情について説明があり、防災意識の大切さが呼びかけられた。

最後に、今井消防隊長から本日の訓練の成果を踏まえ、火災予防に役立ててほしい旨の要請があった。

牧野学舎では11月16日体育館南側において、附属病院では10月18日本館13階病棟、12月18日西館1階駐車場においてそれぞれ消防訓練を実施した。



学校教育法改正に伴う教員組織の見直しに関する説明会

学校教育法改正に伴う教員組織の見直しに関する説明会が、平成18年12月19(火)に天満橋学舎、20日(水)に楠葉学舎で開催された。これまでの教授・助教授・講師・助手という教員の職制が、教授・准教授・講師・助教という名称に、平成19年4月1日から変更されることになる。

教員の職務については、教授、准教授、講師がこれまでどおりとされるのに対し、助教の職務はこれまでの助手とは違い、①授業科目の担当、②大学院学生の研究指導、③自ら研究を行うことなど講師に準ずる職務と位置づけられる。したがって、助教については博士の学位を有し、教育研究上の業績と指導能力が資格として求められる。助手と区別される助教という新職制への移行に際し、助手一人ひとりについて条件を付すかどうか審査されることになる。また、講師についても教育実績、研究状況等を確認するための審査が行われる。

平成18年度 教職員忘年慰労会

12月28日(木)午後3時から、恒例の教職員忘年慰労会が「プラザ14」で開催され、200名余りの教職員が出席した。

はじめに、今井理事長・学長から開宴の挨拶があり、教職員各位に一年間の尽力に対する労いの言葉が述べられるとともに大学の厳しい現況を踏まえて、更なる協力が要請された。乾杯のあと、しばらくは飲み物と軽食で各自、一年を振り返りながら歓談となった。途中、特別の催しとして「二胡の演奏」が更谷先生と二胡奏者の裕子さんにより数曲ずつ奏でられ、始めて聞く音色に暫し耳を傾けていた。



最後に、抽選会が行われ、当選者が読み上げられるたびに大きな歓声があり、賑やかなうちに一年が過ぎていった。



学園都市ひらかた推進協議会
「キャンパスミーティング」本学で開催

学園都市ひらかた推進協議会・枚方市主催の「キャンパスミーティング“市長と語る枚方のまちづくり”」が、平成18年11月24日(金)午後6時から本学講堂において開催された。来年、枚方市制施行60周年を迎えるのを記念して開催されたこの「ミーティング」に、立錐の余地もないほど多くの枚方市民および本学学生たちが会場を埋めつくし、記念講演を女優の東ちづるさんが「泣いて笑ってボランティア珍道中～心豊かに自分らしく生きる～」と題して行い、第2部のキャンパスミーティングでは「市長と学生による“まちづくり”の意見交換」が行われた。

最初に、同協議会の一員として会場を提供した本学の今井久夫理事長・学長の挨拶、続いて中司 宏枚方市長の開会の挨拶に続き、本学4年生の渡辺昌広さんの進行で講演者である女優東ちづるさんが紹介された。東さんは、関西外国語大学短期大学部の卒業生で枚方市を訪れるのは20数年ぶりとのこと、また学生時代に本学の写真部のモデルをしたこともあるというエピソードを交えて話された。

ボランティアとの出会いは32歳のときで、偶然観ていたテレビのドキュメンタリー番組に映された慢性骨髄性白血病の17歳の少年が、自分と同じ広島県因島の出身であったことにある。番組のなかで、骨髄移植や骨髄バンクのことを知るとともに、少年に対する司会者の何気ない「頑張ってくださいね」一言に、東さんの尋常ならざる感性は少年の“生”への無神経さを感じ、少年に連絡を取ると「骨髄バンクへの登録者が少ない」からPRするために少年がテレビに出演したことがわかった。「少年を救いたい」、東さんの苦難あり、笑いありのボランティア活動の始まりであった。

骨髄バンクの登録者を増やそうとポスターの製作にかかわり、できたポスターを貼らせてもらえる場所を一生懸命に探し、時間を割いて講演会に赴き、また患者さんやその家族との交流、そうしたなかで一部マスコミから売名行為という悪意に満ちた記事、ボランティア同士での考え方の違い、若い患者さんの死。しかし、東さんはへこたれません。患者さんとの交流、そして“死”という圧倒的な事実を前に、東さんは学び

続けていきます。治療で髪が抜けても、明るく病気を隠さずに生き、23歳の若さで亡くなった女子大生。その女子大生を偲ぶ席で元患者が何気なく言った「何故、明暗を分けたのだろう」の一言、それを注意した、病院では我がままを通した東大生の患者。我がままの真意は、医師に何でも質問し、いちいち注文をつけることで、生きているうちにできるだけ患者の考えていることや気持ちを医師に伝え、医師の患者理解への負担を減らし、今後の治療に役立ててもらいたいためであった。その彼も、亡くなってしまった。

ボランティアは、奉仕活動(サービス)でも慈善活動(チャリティ)でもなく、自発的な活動であること。「対等に生きる」という行為の難しさと重要性、「比較する」こと不幸(本人は気が付かない)、「一人ひとり違って当たり前である」という認識、「運・不運」はあっても「幸・不幸」と結びつくものでないこと、しかし「人は絶対に死ぬ」という事実。ならば、「自分らしく生きる」という東さんの生き方は、彼ら、彼女らが贈ってくれたメッセージなのかも知れません。

第2部のキャンパスミーティングでは、中司 宏枚方市長が枚方市にある6大学の学生の市政への注文・要望にこたえる形式で行われた。司会は関西外国語大学教授の森 一貫先生、出席した学生は大阪工業大学の藤本 卓さん、関西外国語大学留学生のスベレ・エンゲルさん(ノルウェー出身)、摂南大学薬学部の安藤杏子さん、関西医科大学の藤代定志さん、大阪国際大学の久保宏充さん、そして大阪歯科大学の西尾幸子さんの6名です。

司会の森先生から、「学生の皆さんが、枚方市に望むものは何ですか」という問いに、藤本さんは「下宿しているが、長尾駅周辺には店が少なく、外食に困っている。ロータリーとかも不備。また、枚方市は犯罪が多いのでは」と市長に問い返した。市長は、駅周辺の開発では、長尾と牧野が遅れている。ただ、地域住民のことなどを考慮しながら並行して進めていかねばならないので、すぐに解決するのは難しい問題であると回答。エンゲルさんは、「枚方市は、歩道が少なく危険であり、スピード制限地域を増やすべきである。街に英語での情報が少ない。最終バスの時刻が早い。映画館等の娯楽施設が少ない。バリアフリーが必要。痴漢の対処方法」と多岐にわたり質問した。市長は、ひとつひとつ丁寧に回答していた。

続いて、安藤さんは自ら考えてきた「枚方市家族化計画」を紹介した。行政が音頭をとって、多くの人が参加できる大小さまざまなイベントを開催し、枚方市民全員が家族のようなつながりのなかで生活していく夢のような構想を述べた。現実では、枚方市のイベントには年齢等の制限が多いし、情報提供も不十分である。家族化計画を実現するには、誰でも参加できるようにバリアフリーを進め、会場へのバスの送迎なども考えてもらいたいと要望を述べた。「枚方市家族化計画」というネーミングのすばらしさ、スケールの大きさに、市長も一瞬、虚をつかれたようであったが、大いに賛意を示された。

藤代さんは、大阪・京都から枚方へ車で行くには、道路のアクセスが不便であり、枚方市がさらに発展していくには交通の便の改善が不可欠であること。久保さんは、ゴミの問題を取り上げ、ボランティアで「天之川」の清掃をしているが、市からの働きかけが弱いのではないかと。西尾さんは、学園都市としての枚方市の活性化を提案した。大学間の協力を進めるとともに大学と市民とのつながりを深める施策が必要であること。また、地方から来ている学生のため、市で「学生寮」をつくり、他大学の学生と交流・意見交換するなかで枚方市を活性化させるアイデアやイベントの企画も生まれてくるのではないかと提案した。

最後に、司会の森先生が「また何年かのちこの枚方市に戻って来られたときには、今述べられたことがどれだけ実現しているか楽しみにしてください。また、他の町にお住まいになられても、その町でそうしたことが実現できるよう是非、ご活躍ください」と結ばれた。いつしか予定の時間も過ぎ、さまざまな意見が飛び出した「キャンパスミーティング」は、若い熱気に包まれたまま終了した。

人 事

昇 任

- | | |
|---------|---------------|
| 歯周病学講座 | 教授 上田 雅俊 |
| | H. 18. 10. 1付 |
| 口腔治療学講座 | 助教授 馬場 忠彦 |
| | H. 18. 11. 1付 |

